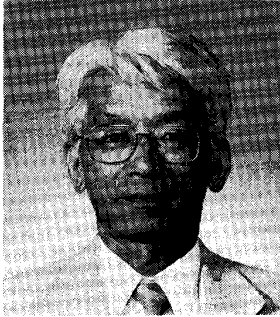


野 呂 賞

東京工業大学工学部教授

鈴木朝夫君

協会活動の広領域化と活性化への貢献



君は、昭和30年3月東京工業大学理工学部金属工学科を卒業後、昭和32年10月より東京工業大学精密工学研究所に勤務し、44年助教授、56年教授、平成元年3月工学部金属工学科教授となり、現在に至っている。この間、昭和44年工学博士の学位を受け、スタンフォード大学およびマックスプランク金属

研究所の客員研究員として研究を行っている。

鋼の焼もどし脆性挙動、マルエージ鋼の析出強化挙動、規則・不規則変態挙動などの組織学的・力学的研究、構造材料としての金属間化合物、複合材料の研究、実験状態図や計算状態図のデータ整備など材料設計の観点からの研究を行っている。これらの業績により昭和49年には本会より西山記念賞を、また昭和56年には日本金属学会より論文賞を受賞している。

君は、研究と教育に専念するかたわら日本鉄鋼協会の活動に貢献した。すなわち、昭和53年度から和文会誌並びに欧文会誌分科会編集委員を務め、58年から60年、62年から平成元年までの2回理事に選任され、56年から61年まで講演大会分科会主査、さらに昭和62年から平成元年まで編集委員長を務めている。

講演大会分科会主査の時代には新分野の導入を効果的にに行い、その定着化を図るためにMaterials Processing (MP) 専門委員会を設置し、鉄鋼協会の創立70周年を期して、昭和60年度春季講演大会から萌芽・境界領域部門の導入を実施した。編集委員長の時代になっては講演概要集を「鉄と鋼」から分離させて、巻号の付いた独立の速報誌の形態をもち、かつすべての材料に関わる新分野をも包含できる「材料とプロセス」を創刊した。さらに、従来和文誌の英語版の色彩が強かった欧文誌を、鉄鋼だけではなく材料全般の学問と技術に関わる原著論文と総合解説を掲載する新しい雑誌、また会員・非会員の区別なく広く国の内外からの優れた報文を集めて掲載する雑誌と位置づけて、誌名を「ISIJ International」と変更し、主要各国にAdvisory Boardを置き、欧文会誌分科会の構成について整備を行うなど、協会の顔とも言うべき定期刊行物の活動分野の広領域化と国際化を図り、協会の活性化に貢献した。また、本会の事業の一つである合金状態図共同研究会の幹事を務めている。

君は、このように本会における活動のみならず、科学技術庁航空・電子等技術審議会専門委員、科学技術会議専門委員などを歴任し、科学技術行政に対する答申や提言を纏めるとともに、ASM状態図評価プロジェクト委員として状態図データの整理を行い、宇宙開発事業団客員開発部員として微小重力下での材料実験(FMPT)の実施計画支援を行っている。

野 呂 賞

住友金属工業(株)鋼管技術部参与

奈良好啓君

鋼管に関する標準化、共同研究、国際会議等における貢献



君は、昭和31年3月東京工業大学理工学部機械工学科を卒業後、直ちに住友金属工業(株)に入社、和歌山製鉄所建設本部に勤務し、動力設計部門を担当した。39年9月米国カーネギー工科大学に1年留学の後ニューヨーク事務所勤務を経て、和歌山製鉄所に帰任した。45年より和歌山製鉄所溶接鋼管工場長

を経て、48年4月より大阪本社第二技術開発部主任部員、主席部員を歴任し、58年6月より調査役となり、現在は鋼管技術部参与に就任している。

その間、君の本会を中心とした活動の主要なものは次のとおりである。

1. 高級ラインパイプ共同研究委員会

君は昭和53年に発足した高級ラインパイプ共同研究委員会(HLP委員会)において、鋼管製造会社が共同研究開発したラインパイプの低温における不安定延性破壊試験(バースト・テスト)の研究にバーストテスト分科会主査として関与した。この委員会で君は各社より派遣された研究者の意見の集約を図り、研究計画を案画して釜石及び英国スバードアダムスにおける破壊試験を積極的に推進した。

君は、その研究結果についてHLP委員会による海外での研究発表と技術交流を提案した。その結果、各国の石油・ガス業界はパイプラインの安全性について強い感心を持つようになり、わが国のラインパイプ品質に対して高い評価を与えるようになった。HLP委員会は昭和58年この成果により第二回山岡賞を受賞している。

2. 共同研究会鋼管部会と鉄鋼圧延国際会議

君は昭和58年より現在に至る長期間にわたり共同研究会鋼管部会直属幹事として、鋼管製造会社間の技術交流を図り、鋼管製造技術の発展に貢献した。中でも鋼管部会が中心になり、60年に開催した第3回鉄鋼圧延国際会議(鋼管)に実行委員会幹事長として活躍し、内外より330名にのぼる参加を得て成功裡に本会議を終えた。

3. 標準化委員会

君は昭和58年より現在まで鋼管分科会主査及びISO鉄鋼部会TC67分科会主査として、鋼管のJIS規格ISO規格の制定改訂に関与した。この活動において常に業界全体の立場に立って行動し、新製品と新技術を標準化することに積極的な姿勢を示した。その結果、JIS鋼管規格の技術内容を充実することができた。またISOではTC67を通じて、国際標準化活動に多大の貢献をしている。

このほか、君は、昭和48年より米国石油協会(API)の鋼管規格協会日本代表として、油井管ラインパイプの標準化に寄与している。今までわが国の鋼管技術のAPI規格化には積極的に活動しており、新API規格の制定などに成果を上げている。